

世界最大級の電化都市・東京は、大型発電所が立地する地方の負荷で快適さを享受してきた。そんなあり方に異を唱え、脱原発を訴える保坂展人さんが23区最大の人口を抱える世田谷の区長に就任する。「区民や区職員に理解してほしい。日本は3月11日に変わったことを」と強調する保坂さんに、どう変えていくのかを聞いた。(松村裕子)

脱原発

保坂展人・新世田谷区長に聞く



本紙のインタビューに応じ、原発依存からの脱却を訴える保坂展人さん(上)と、東京新世田谷区で

ほさか・のぶと 1955年、仙台市生まれ。中学校の内申書をめぐり裁判を16年間争う中で新宿高校定時制を中退。ジャーナリストとして活躍しながら、96年以降、社民党の衆院議員を計3期11年務め、「国会の質問王」の異名をとった。国政復帰を目指していたが、東日本大震災で自治体が即応的な活動をするのを見て方針転換、告示直前に世田谷区長選への出馬を表明した。

ク時に区や区民に何ができるか、専門家の提言を受けるとを考える。既にエネルギーについて提言したいという声も寄せられている。多くの区民が参加できるオープンな場で議論を起こしたい。

—近年の東京の「極集中」で、区内でも利益優先の大型再開発がめぐる押しだった。防災や節電の観点からその見直しはあるか？

「二子玉川や下北沢などで大型開発が計画されている。防災には住民のコミュニケーションは欠かせないが、開発の問題点は大きな道路などによって住民が分断されたり、高層マンションの建設で新旧住民の交流が進まなくなることだ。開発を全否定しないが、多くの住民が望むことなのかを調べ、修正、補正を判断する。二子玉川では既に高層ビルが完成しており、結果としてできたものは生かすしかないが、新旧住民に共通する問題に取り組みたい。『コミュニティを密にすることを考えた

—世田谷区長として脱原発を主張していくことは可能なのか？

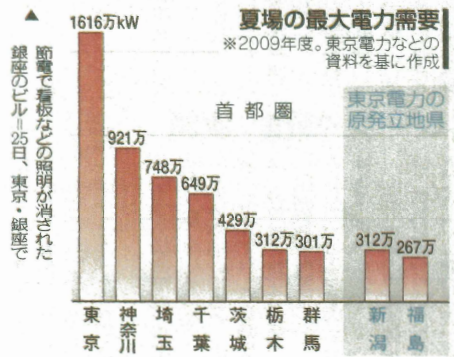
「まずは、区の防災を考えたい。東京や東海地方でも近い将来、大地震が起きる可能性は大きい。そのためにも、災害対策の総点検が必要だ。首都直下地震や東海地震が起きたら区民はこうなるのか。東海地震が起きたら、世田谷区が静岡県や浜岡原発の被害に遭わないとも限らない。シミュレーションをして、区の防災計画に足りないところを強化する。現計画では想定されていない放射能の被害もシミュレーションに加える。放射能から全区民の安全を守れない結論が出れば、老朽化した原発から停止を求め、このシミュレーションは、国などに原発を止めさせるための資料にもなる」

—全国に脱原発の考えを発信したい？

「自治体の長として社会的に必要な発言をしていくことを、全国の人が期待していると思う。世田谷で発信すると、的と時宜を得ていけば、日本全国に聞

まず災害対策総点検

放射能被害をシミュレーション



「世田谷区は政令指定都市並みの八十三万人以上が住んでいる。『世田谷から発信すれば日本を変えられる』と、この大きな自治体の可能性を考え、出馬を決意したし、区民にも訴えてきた。選挙戦では『原子力などに頼るエネルギー選んだのは大きな一歩だど



の転換を本気でやろう」という意欲を語った。国内では過去最大の原発事故があったのに、社会でエネルギーの転換の議論が起ころないう。そんな中で、自分が当選したのは大きな一歩だど

受け止めている」

—エネルギー転換のため、まず取り組む課題は？

「最も優先してやりたいのは自然再生エネルギーの研究開発をリードし、情報発信することだ。区内には環境やエネルギー問題の研究者も多く、脱原発の動きをリードできる、と確信する。東京で消費される電気を供給していた福島原発で起きた事故は、世田谷区にとっても無関係ではありえない。消費者としても従来の電気の使い方を考え直さよう、という議論を盛り上げたい。夏の電気需要が一

「世田谷区は政令指定都市並みの八十三万人以上が住んでいる。『世田谷から発信すれば日本を変えられる』と、この大きな自治体の可能性を考え、出馬を決意したし、区民にも訴えてきた。選挙戦では『原子力などに頼るエネルギー選んだのは大きな一歩だど